

唐津藩歴代藩主の移り変りとその政治⑤（1/2）

～水野時代～

■水野時代 4代56年

初代 水野和泉(いずみの)守(かみ)忠(ただ)任(とう)
2代 左近将監(さこんしょうげん)忠(ただ)鼎(かね)
3代 和泉守忠光(ただあきら)
4代 和泉守忠邦(ただくに)
石高6万石

初代水野和泉守忠任は、岡崎から唐津へ来た。前任土井氏の7万石の内、怡土郡3カ村、松浦郡の内浜崎等10カ村、計1万石が幕府領となった。着任9年後の明和8年(1771)、虹の松原一揆が起こった。発端は、財政難を打開するために、これまでの藩主が黙認してきた免税地(永川・水洗・砂押)に竿入れ(検地)を行い、年貢の増収をはかろうとしたことである。富田才治を中心としたリーダー達の用意周到な計画のもとに、虹ノ松原に集まった1万数千人の農漁民の一糸乱れぬ行動は、藩側に全ての要求を認めさせ大勝利をおさめた。しかし、一揆の指導者として平原組大庄屋富田才治・半田村名頭麻生又兵衛・同市丸藤兵衛・常楽寺和尚智月は処刑、連絡役の中村伝右衛門は年少を理由に松島へ流刑となった。

2代藩主忠(ただ)鼎(かね)の時、天明の飢饉があり全国で多くの餓死者がでた。田沼意次の後を受けて老中の座についた松平定信は、傾きかけた幕府の財政を立て直すために、厳しい倭約令・飢饉に備えた困い米・旧里帰農令・棄捐令(きえんれい)・学問の奨励(寛政異学の禁)等を柱に寛政の改革を断行した。これを受けて唐津藩でも、家老の二本松大炊(おおおい)を中心に、倭約令・新田開発・飢饉に備えた困い穀(麦・稗・ヒジキなど)・財政再建のため藩の専売品(楮・和紙・石炭など)の奨励・藩校(経(けい)誼館(ぎかん))の設置等を次々に行った。当時の唐津藩の産業は、14年(安永～天明)の年月をかけて、唐津藩軍学師木崎攸(ゆう)軒(けん)が描いた『肥前国産物絵図』に詳しい。

～2/2へつづく～

分野

歴史

◎地図・写真・統計資料など



(唐津ケーブルテレビジョンHPより)



市指定 水野織部正忠光碑
唐津市元石町(雄嶽山)
指定年月日:昭和58年7月24日

(『唐津市の文化財』より)

◎引用・参考文献(出典)

◆『唐津市の文化財』/唐津市教育委員会

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話: 0955-72-3467

■ホームページ:
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

唐津藩歴代藩主の移り変りとその政治⑤（2/2）

～水野時代～

分野

歴史

◎地図・写真・統計資料など

～1/2からつづく～

3代忠光(ただあきら)の時、最後の朝鮮通信使を対馬で応接するために、日本側の正副使一行が唐津領内を通り、呼子から対馬へ向った。また、伊能忠敬が日本全図作成のため幕府測量隊を率いて、ひと月ばかり唐津領内を測量して廻った。どちらも幕府挙げての大事業であったので、唐津藩は数年前から事前準備や応接などで大変であった。

忠光は、文化11年(1814)江戸青山別邸で死去、享年44才。嫡子忠邦は、大石村の雄岳(唐津商業高校裏)に墓碑を建立した。『文化11年和多田新道御山御石之覚』(値賀川内徳永家文書)には、石碑は竹木場村石切谷で、石工平太夫親子を中心に50名ばかりの村人を動員し、文化11年11月から翌年2月にかけて造りあげたことや、完成した石碑は350人余の人夫が「ころ」や「そり(修羅)」を上手に操り10日以上かけて御山(雄岳)まで運び、石碑の組み立てには、延43名の石工が15日間かけて仕上げたことなどを記している。

4代藩主水野忠邦は、老中として天保改革を行い歴史に名を残したが、唐津領の内1万石(43カ村)を幕府へ上知(幕府へ領地を差し出すこと)して浜松へ転封したため、残された領民の上知返還運動が起こるなど、唐津では不評の城主である。忠邦へ死をもって上知を諫めた老臣二本松大炊義(よし)廉(かど)の墓が龍源寺にある。

◎引用・参考文献(出典)

◆『唐津市の文化財』/唐津市教育委員会

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html